

五十崎の自然と温かいもてなしが、創作への扉を開けた。



愛媛県の五十崎和紙とコラボレーションするために、パリから一家で移り住んできたガボー・ウルヴィツキさん。延べ1年近く古民家に滞在し、息子2人を保育園に通わせながら、和紙の新しい可能性を探究。「自然と伝統と現代の暮らしが見事に共存している」と彼が称賛する和紙の里を訪ねた。

導かれるように始まった一つの出会いの物語

山の音がする……。五十崎の自然を描写したガボーさんの言葉である。山々に囲まれ、清流、小田川が中心を流れるこの地は、霧に包まれることも多く、昔話の絵本のような幻想的な風景が広がる。古来、紙すきの盛んな土

地であったが、現在、残っている工場はわずか2軒。そこで2006年、中小企業庁を中心とした「JAPAN BRAND」育成支援事業の助成を受け、パリのインテリア見本市に出展し、以前から和紙に興味があったガボーさんと出会ったのである。

代表の齋藤宏之さんは話す。「和紙を使った壁紙を作ろうとしても設備がない。地の鉄工所の協力を得て、和紙を乾かしながらローラーで巻いていく機械を造るところから始まりました」

農家が野菜を差し入れたり……。その温かいもてなしは、彼の創作活動に大きな影響を与えたようだ。

和紙の上で融合した日本とパリのエスプリ

小田川のほとりにある「天神産紙」を訪れると、しんとした工場に、紙をすく音だけが響く。「気温や湿度によって、材料の配合も、紙をすく回数やリズムも変わってきます。毎日1年生です」と話す山本咲子さんはこの道40年の80歳。小さな体が、紙をすいている時は大きく見える。

「最初は何ができるんじゃないかと不思議でしたが、型を外すと着物の柄みたいなきれいな模様が現れて、驚きました」（山本さん）

次に試みたのは、ギルディングという金属箔で模様を施す技法との融合。手すき和紙の柔らかな風合いと、見る角度によってさまざまに表情を変える金属箔が互いを引き立て、華麗な

「Ja-Gué-Na」(ジャグエナ) フランス名「Japan(=日本)、Guérison(=癒やし)、Naturel(=自然)」というフランス語の頭文字と、「職人じやげな」という謙遜と矜持を感じさせる五十崎の方言を重ねて付けられた。和紙の魅力を世界に発信していくために出合った五十崎とガボーさんは、これからどんな物語を紡いでゆくのか楽しみにである。



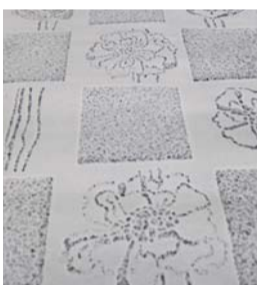
和紙にギルディング加工を施すガボーさんと職人



リズムカルに紙をすく山本さん。糊の役目をするトロアオイの粘り気が増す寒い冬ほどいい紙がすけるといふ



町の皆さんに温かく迎えられたガボーさん



透かし手法による透かし和紙チェス

ガボーさんがまず挑戦したのが、「透かし手法」。すきたての和紙に水をかけると、その部分だけ薄くなるのを利用して、模様を描く技法

「和紙という素材、五十崎の自然と人々は、新しい創作への扉をいくつも開けてくれました。今後さらなる実験を一緒にしていきたい」（ガボーさん）

「Ja-Gué-Na」(ジャグエナ) フランス名「Japan(=日本)、Guérison(=癒やし)、Naturel(=自然)」というフランス語の頭文字と、「職人じやげな」という謙遜と矜持を感じさせる五十崎の方言を重ねて付けられた。和紙の魅力を世界に発信していくために出合った五十崎とガボーさんは、これからどんな物語を紡いでゆくのか楽しみにである。



壁紙デザイナー ガボー・ウルヴィツキさん 1953年、ハンガリー生まれ。パリ在住。自身のブランド「ULGAD'OR」が、2007年、フランス国家遺産企業の認定を受ける。08年8月～09年1月、09年7月～12月、五十崎に滞在。



五十崎社中 代表 齋藤宏之さん 1972年、神奈川県生まれ。通信系IT企業に13年間勤務後、妻の実家である五十崎の和紙復活のために移住し、2008年7月、株式会社五十崎社中設立。手すき和紙を使った製品の製造・販売を行う。

五十崎社中 TEL 0893-44-4403 www.ikazaki.jp



光の加減によって表情を変える「ギルディング和紙」。ブックカバーやポストカード、コースターなども展開予定※価格未定



ガボーさんのアイデアで、和紙を使ったファッションショーも開催



空間をエレガントに演出するギルディング和紙の壁紙